

# 日本海を越えていく



## 進取果敢

校長 沼崎 幸治

雲一つなく青く晴れ渡った空、穏やかなさざ波、新緑の薫風が香るまさに絶好の島びらき日和。時間にしてわずか5分ほど。とはいえ、その5分間という凝縮された時間の中には子どもたちの努力の結晶が詰まっていました。

4月、わかめ作業が終わるや否や、中学3年生のリーダーを中心にソーラン練習が始まりました。初めて踊る子もいれば、年齢層にも幅があります。なかなか思い通りには進みません。4つのグループに分かれ、それぞれで振り付けを覚えることからのスタート。ある程度の振り付けがで



きて、全体で合わせて動きの確認。前後の列の入れ替わりや、最後の決めポーズの立ち位置など、だんだん形が整ってきました。そして、仕上げの掛け声。ここ数年はコロナ禍ということもあり、掛け声も久しぶりとのこと。どこでどんな声を出すかは、先生方よりも長年踊り続けてきた子どもたちの方がよく知っているようでした。とにかく、自分たちで考え、自分たちで話し合い、自分たちで作りあげた島っ子ソーラン。リーダーたちが先生と練習前後に打ち合わせをしたり、感想を求めたり、動画や音楽をお願いしたりする姿が見られました。先生たちも子どもたちが主役という立ち位置で、陰ながら常に支えていました。リハーサルを経て、当日。大勢の観覧者を前にして、思いっきり踊り終えた子どもたちはとても誇らしげで青空に映えるとてもさわやかな笑顔が印象的でした。当日、ご覧いただいた皆様には、合いの手を入れていただいたり、拍手で盛り上げていただきまして、本当にありがとうございました。

もう一つ、驚いたことがあります。中学3年生のみなさんから、作ったわかめを自分たちで販売したいという申し出がありました。いつ、どこで、どのようにして販売するかを観光協会の方と相談しながら、行動に移したのです。そして、いざ販売の時も、積極的に来島されたお客様に声をかけ、とてもさわやかな対応をしていました。二日間で予定していた数を売り尽くすことができました。

島びらきを始め、5月は健康ウォーク、小学生は神納小との交流学习と村上市内の社会見学、中学生は二泊三日の神林中との交流学习と大学や企業等への体験学習がありました。どの活動でも、子どもたちが自分たちから積極的に他者と関わりながら、絆を深め、多くのことを学ぶことができました。

子どもたちが自主的に活動に取り組むには、学校だけではなく、保護者や地域の皆様のお力添えがなくては決してできないことだと改めて感じました。と同時に、子どもたちの達成感に満ちた誇らしげな顔が、私たち大人にとっても大きな力となることを感じました。今後の活動もよろしくをお願いします。

## 今年も「島開き」を盛り上げました。 ～島開き・島っ子ソーランの様子～



2日、3日に島びらきが行われ、法被に身を包んだ児童生徒が、大勢の観光客の中で島っ子ソーランを披露しました。堂々と踊り上げる姿に割れんばかりの歓声が沸き上がり、観光客の中からは「かっこいい！」「すげー！」という声が…。鳥肌が立つ瞬間でした。



私は、ソーランリーダーを任された時、「うまくやっていたかな」と不安でいっぱいでした。でも、思ったよりも上手く立ち回れて良かったです。無事に本番を迎えて全員で成功させることができました。島の人や観光客の方々から「良かったよ～」という声を沢山いただき、私はソーランをやってきて本当によかったと思いました。

～ソーランリーダーの感想から～



## 美しい粟島を満喫しました。 ～健康ウォークの様子～



11日(土)、粟島恒例の健康ウォークが開催されました。心地よい天候の中、保護者や地域の皆さんと一緒に楽しく歩くことができました。

テロウ、八幡鼻のチェックポイントを通過して釜谷まで歩くコースで、友達や先生、地域の方などと、いろいろなお話をしたり、海や山の景色を眺めたりと、島の自然も満喫することができました。中学生の中には、八幡鼻の先端まで歩き、絶景を楽しむコースに挑戦した生徒もいました。



休憩をした後、小学生は釜谷で穴釣り体験をして楽しみました。魚も獲れて大興奮の子どもたちでした。中学生は、海洋コース、チャレンジコースに分かれ島を一周して学校まで歩いてきました。歩き切った時には、疲れた中にも達成感に満ちた表情が輝いていました。企画運営をくださった社会教育委員会の皆様、一緒に歩いてくださった保護者の皆様、地域の皆様、ありがとうございました。





## 日々の生活習慣を大切にしています。



「毎日の心身の健康は、日々の生活習慣から…」ということで、元気アップ週間を設定し、自分自身の生活について振り返りました。今回のテーマは睡眠。しっかり食べるとともに、ぐっすり眠ることが元気な活動につながる。このリズムが大切であることをあらためて感じていました。



## 日々の言葉かけが素敵な人間関係を創ります。



「人とのコミュニケーションは、言葉遣いから」ということで、中学校では、SST(ソーシャルスキルトレーニング)の学習を一年間を通して行っています。話し方や聞く態度一つでより良い人間関係を築く一歩となります。日々の何気ない言葉かけや関わり方がいかに大切かを学習し、一步一步信頼関係を築いていってほしいです。



## より高見を目指して、スタートです！～児童生徒総会の様子～



5月15日に、令和6年度第1回児童生徒総会が行われました。今年度のスローガン「上下一心～粟島浦小中学校革命～」が提案された後、各委員会や部活動の活動計画も提案され、可決されました。「上下一心」とあるように、終始、真剣な態度で学年に関係なく、自由に意見が交わされ、更なる粟島浦小中学校の飛躍を願う思いが伝わってくる素晴らしい総会となりました。みんなの心が一つになって取り組む粟島浦小中学校が本当に楽しみです。

## PTA会長あいさつ PTA会長 様

今年度のPTA会長の松浦拓也と申します。何卒よろしくお願いいたします。

今年度も粟島浦小中学校の伝統行事といえる「わかめ作業」からのスタートでした。新たに仲間になった児童生徒や先生は多少緊張した顔で作業を開始

していましたが、地域の皆様のご協力もあり、徐々に笑顔が増えて笑い声も聞こえるようになっていて安心しました。その後の4月下旬に行われた授業参観では、さらに学校生活を楽しんでいる様子が分かり、とても安心して見守ることができました。充実した学校生活へ向けて、

様々な工夫や努力をしてくださっている先生方に心から感謝いたします。新型コロナウイルスが5類感染症に移行して一年が経ち、ようやく子どもたちの活動に制限制約が少なくなりました。今後も学校・家庭・地域のつながりを大切にして、PTAとしても子どもたちが成長できるようサポートしていきたいと思っております。保護者の皆様には、本年度もご協力をよろしくお願いいたします。



# 粟島を離れ、素敵な仲間の中でたくさんのことを学びました。

## ～小学校:交流学習・社会見学の様子～

16日 小学校が交流学習・社会見学に行きました。午前の便では風も波も本当に穏やかで、ウキウキ気分での移動を楽しんでいました。交流は今年度から神納小学校さんをお願いしました。初めて会う子どもたちなので、粟島の子どもたちはだいが緊張していた様子でしたが、温かい笑顔で迎えてくださったので、すぐに緊張も吹き飛んだ様子。学級に案内してもらい、普段とは違った大人数の中での学習に取り組みました。そこでも優しく声をかけてくれた神納小学校の子どもたちに感謝です。一緒に給食もいただきましたが、給食当番が準備をするというスタイルも粟島浦小学校の子どもたちからすると珍しい光景。温かい給食がいただけることにも感謝です。学校を出る時にも「また来てね!」と温かく見送ってもらいました。午後からは社会見学でそれぞれのクラスごとに学習と関連した場所に行きました。1・2年生は「夢ファームあらかわ」さんでイチゴについてのお話を聞き、摘み取り体験をしました。3・4年生は「原信」さんでスーパーの工夫などについて学び、「村恭」さんでお菓子作りの様子を見学しました。5・6年生は「教育情報センター」さんでプラネタリウムで星空観察をしました。その後「常盤園」さんでお茶づくりの様子を教えてくださいました。学校では学べないことをたくさん学ぶことができ、そして見学・体験先で「人の温かさ」についても考えることができました。

## ～中学校:交流体験学習の様子～

21日(火)から23日(木)、2泊3日で交流学習を行いました。1日目、神林中学校で歓迎会の後、授業、部活動と交流をしました。歓迎会では粟島の中学生は島っ子ソーランを披露し、神林中からは校歌の合唱を披露していただきました。中には、1年ぶりに再会をした生徒もいて、「久しぶり!元気だった?」という声も聞かれました。作成したスライドで粟島の紹介をして、授業にも積極的に参加し、部活動も普段はできない体験をすることができました。2日目、午前中授業を受け、給食を食べた後、神林中を後にしました。初めは緊張こそしていましたが、徐々に慣れていき、大勢の生徒の中でも臆せず堂々と発表したり、自分の意見を言う姿が随所に見られ、神林中の先生からもお褒めの言葉をいただきました。2日目の午後は新潟食糧農業大学、いちごカンパニーへ行き、中学校卒業後の進路について学習をしてきました。3日目は人権学習として隣保館で講話を聴き、差別の実態について学びました。交流の館八幡ではいかの塩辛づくりを体験してきました。海の恵みを堪能する貴重な時間となりました。今後、体験、学習したことを振り返り、自分の生き方につなげてほしいと思います。

